

<栃木地域>

■このしろ伝説

むかし、^{ありまのみこ}有馬皇子が下野国へさすらって来て、この地方の五万長者と呼ばれる長者のもとへ^{ほうこうにん}奉公人として仕えた。

長者にはひとりの娘がおり、いつの間にか、^{みこ}皇子とこの娘は恋仲となった。しかし、^{ひたちこくし}常陸の国司からこの娘を嫁に欲しいとしきりに^{さいそく}催促されるので、「娘は死んでしまいました。」と返事をし、^{ぎそう そうしき}偽装の葬式を行った。

本当の^{そうしき}葬式に見せかけるため、「このしろ」（つなし）という魚を焼くと人を焼いたようなにおいがするので、^{ひつぎ}棺のなかに「このしろ」と二つを入れて、^{のべ}野辺送りをしたという。